

# あ と が き

副所長 油井 壮介

各学校及び各教育機関におかれましては、日頃より本センターの事業に対し、多大なる御支援と御協力を賜り、誠にありがとうございます。

平成 28 年 2 月 23 日開催の研究発表大会には、昨年を上回る延べ 1190 名の皆様に御参加いただきましたことに深く感謝申し上げます。

また、特別講演では、早稲田大学大学院 教職研究科 教授の田中博之先生に「児童生徒の学力を高める授業づくり・学級づくり～活用型学力、学級力、家庭学習力の向上を図るには～」と題して御講演をいただきました。

講演の中で田中先生より、子どもたちに身に付けさせるべき「学力」とは、「教科学力」だけでなく「社会的実践力」とそれを下支えしている「学びの基礎力」の 3 つの力をまとめた「総合学力」であることを示していただきました。その「総合学力」育成の方策として、「基礎学力向上のポイント」「活用学習のねらいと特徴」「活用学習に効果的なフィンランド・メソッド」「言葉の型の整理・活用」「言語活動の充実」「子どもの家庭学習力を育てる」、そして「学級力を高める」ことなどを実証的なデータや豊富な実践例で具体的に示していただきました。特に「学級力を高める」ことは、アクティブ・ラーニングなど様々な学びのための土台となる部分であり、学力向上に必要不可欠であることがわかりました。そして、それらを学校全体で組織的・計画的に取り組んでいくことが、児童生徒の「豊かな学力の確かな育成」につながることを学ぶことができました。参加者が、それぞれの校種や立場から改めて学力向上について考えるきっかけとなる素晴らしい内容でした。

さて、近年のグローバル化、高度情報化、少子高齢化などにより、学校教育を取り巻く状況は激しく変化をしています。特に、これからの子どもたちが将来活躍する社会では、技術の高度化や複雑化、ロボットの代替も予想される業務の機械化などにより、職業生活の在り方も大きく変わる可能性が高くなっています。そのような社会に子どもたちを送り出す私たちは、その変化に対応できる資質・能力を、子どもたちに育成することが求められています。

そのためには学校教育に携わる私たちは、「社会の変化」と「子どもたちの現状」を正しくとらえ、学校のあり方を考える中で、変化への対応方策を適切かつ果敢に提案・実行していくことが求められています。「社会の変化」と「変化への対応に必要な資質・能力」の差を明確にし、その差をどのように埋めていくか、あるいはどのように超えさせていくかという視点を持ちながら教育活動を進めていく必要があるかと思えます。

本センターでは、本年度は、「グループ研究」から「一主事一研究」へとセンター研究の体制を変更いたしました。研修主事が「確かな学力」育成のために「授業力向上につながる指導案の作成」「先生方から必要とされる指導ポイント例や教材の作成」などを、研究協力校・研究協力員の力を借りながら研究しました。研究成果を各学校で御活用いただければ幸いです。その研究成果である本研究紀要は、今年度より本センターのホームページ掲載となります。

また、研究と並ぶ大きな柱である研修会の改善とともに、出前研修などを通じた各校の校内研修、校内研究への支援にも積極的に取り組んでおります。今後とも、皆様方の御支援と御協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本研究の推進に当たり多大な御支援と御協力を賜りました研究協力校、研究協力員、山梨大学、山梨県教育庁の関係各位に厚く御礼申し上げます。